かけはし

発　行：峡南教育事務所地域教育支援スタッフ
所在地：南巨摩郡富士川町鰍沢771-2
ＴＥＬ：０５５６―２２―８１５４　　ＦＡＸ：０５５６―２２―８１４４
ＨＰでも御覧になれます。　ＵＲＬ　http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html

異校種連携セミナー

平成２８年度の峡南地区異校種連携セミナーが、１１月１５日に身延町総合文化会館で開催されました。地推協関係者や地域の教職員、保護者、町関係者等８６名が参加しました。今年のテーマは、「つなぎめの支援の在り方」。講師に臨床心理士の長田由布紀氏をお迎えして、前半はご講演、後半はグループワークのご指導をいただきました。

「『気になる子』の育ちを支えるつなぎめの役割
～発達段階に応じた支援の在り方を考える～」
臨床心理士　長田由布紀　氏

「気になる子」という言葉は十数年前から使われていましたが、アカデミックな論文の場に登場したのは２００５年です。「気になる子」と指摘される最初のタイミングは就学前（保育園・幼稚園）となります。では、「気になる子」とはどんな子を言うのか。子育て支援者の方々は、落ち着きがない・親や周りの友だちとのコミュニケーションができない…等をあげています。それらが複数合わさった時に発達障害を疑い、早期発見が大事であるとの思いから「発達障害の子」とラベリングしたくなります。その一方で、親は障害を認めることは非常に苦しく、たとえ障害を受け入れても引き続き保育園・幼稚園に通うことになることがほとんどです。そこで、保育士・幼稚園の先生に求められる支援として、「親の気づき」のパートナーになる・保健師さんとの情報共有をはかる・臨床心理士に助言を受ける等が大切になります。また、私はつなぎめの支援として５歳児健診が要になると考えます。軽度発達障害や軽度精神遅滞に就学前に気づける可能性がありますし、就学（小学校）までの１年半ほどの間に行う指導を工夫・配慮することができます。そして、どのように教育機関に橋渡ししてゆくかに繋がります。続いて、小１プロブレムについてです。小学校の先生はその特徴として、授業中に立ち歩く児童がいる・学級全体での活動で各自が勝手に行動する…等をあげています。では、起こさせないために必要な事とは、家庭との連携・保幼から小学校への移行を感じさせるプログラムを経験させる・地域ぐるみで交流の場を数多くつくる・保育士と教員の意見交換の場を実施（保幼→小への連携個票作成も有効）することです。また、小１で子どもたちは学ぶ姿勢を身につけます。そして、身につけられた学ぶ姿勢は一生続きます。小１プロブレムも小４ビハインドも学ぶ姿勢を身につけられるかどうかで変わってきます。中１ギャップについてですが、中学校で顕在化する問題も、実は小学校時代から始まっています。従って、小→中の連携が大切になります。連携個票作成等が有効手段になると思います。また、スクールカウンセラーを活用してください。保幼・学校の担任の先生方、一人で抱え込むことなく、地域の資源をお使いください。これこそが連携ということになります。

後半のグループワークでは、各グループの発表に対して、適切なご指導をいただきました。経験豊富な事例や知識、流れるような口調で心に届く熱いお話に予定されていた時間があっという間に過ぎていきました。参加者からは、「つなぎ（連携）の必要性が理解できた。」「有意義な時間だった。」などの感想が聞かれました。

かけはし１４７号の誌面

p1　異校種連携セミナー
p2　連載特集『峡南地域の食材』No.１８
p3　早川町寿さわやか大学・早川南保育所園児交流会、峡南高校第１９回正月飾り交流会、ひと・もの・まちづくりセミナー
p4　第１７回ふじかわ分校まつり、高校学園祭、身延山・峡南・増穂商業高校

☆☆連載特集　『峡南地域の食材』No.18

身延町「あけぼの大豆」と食改さん

【あけぼの大豆】

あけぼの大豆は地域性が強く生産量が限られており、入手が難しく「幻の大豆」と言われ、特にその枝豆は収穫期の数日しか出回らず、とても希少です。6月中下旬に播種、10月上中旬から収穫が始まる極晩性で莢や種子が大きい極大粒の白大豆の在来種で身延町の特産品です。莢の数も多く平均1株120莢で3粒入った莢も多数つきます。丈は放置すると1mを超え、横に枝が広がります（1m以下で摘芯している場合もあります）。大粒で甘みと旨みが強いのが特徴です。大豆としてはもちろん、味噌・豆腐などの加工品も人気の他、近年は未成熟大豆である枝豆も注目されているところです。

身延町ではこの「あけぼの大豆」を使って、農業の振興や6次産業化を図ることで、地域経済の活性化による雇用の創出や、主要産業である観光産業との連携による交流・定住人口の拡大を目指しています。

◎枝豆収穫体験

あけぼの大豆産地フェア2016「枝豆収穫体験」が、10月の約３週にわたって町内の８か所で開催されました。参加者は収穫袋を購入して畑に入り、あけぼの大豆の木から枝豆をもぎ取って収穫していました。１０月１６日に訪れた西嶋会場においても、好天に恵まれて県内外から多くの方々が訪れ、収穫体験を楽しんでいました。

西嶋会場での枝豆収穫体験の様子

【身延町の食改さん】

身延町食生活善推進員会は、身延町合併誕生後、２００５年（平成17年）４月に発足。佐藤義恵会長を含め、現在会員数は８５名で活動しています。

今年度の目標は、①地域の特性にあわせて食育を推進しましょう、②生活習慣病予防についての知識を普及しましょう、③継続した運動が出来るよう地域で普及しましょう④災害時に備える食について学習し、地域に普及しましょう、の４つです。これらの目標を達成させるために、年に３回全会員対象の学習会を開催し、地域の普及に努めています。「みのぶまつり」では、あけぼの大豆のきなこあめの試食や0.6%のみそ汁を試飲してもらい、家庭のみそ汁と比較してもらいました。

【食改さん学習会】

佐藤義恵会長

１１月１７・１８日に、第２回目となる身延町食改さんの学習会が中富すこやかセンターで行われました。「地産地消と減塩工夫を考える～元気に長生き～」をテーマに、南部町の栗田恭子管理栄養士を講師としてお招きして、前半は講習を行い、後半は調理実習が行われました。講習では、山梨県の健康と栄養の状況について、県民の皆さんに取り組んでもらいたいこと、気になる認知症予防に良い食事、運動の必要性、アンチエイジングライフについて等を豊富な知識とデータからお話いただいて、食改さんたちも真剣な表情をみせていました。続いて行われた調理実習では、４品（ひじきチャーハン、八宝汁、小魚ピリ辛サラダ、小麦まんじゅう）を手際よく調理しました。手軽に作れて、栄養バランスもしっかりとれていて食改さんたちからも好評でした。

早川町　寿さわやか大学・早川南保育所園児交流会

１２月１６日（金）に、早川町で高齢者と早川南保育所（深澤幸枝所長）園児との交流会が、早川町民会館で行われました。これは、早川町全域の６０歳以上の方を対象とする生涯学習事業「寿さわやか大学」の一講座として実施されたものです。「寿さわやか大学」は、早川町の高齢者同士が生涯にわたり、健康でいきいきと心豊かに過ごすため、ともに学びふれあいながら学習することを目的として行われているものです。当日は、早川南保育所の園児１２名が、「梅の花さいた」「ツッパリ High School Rock'n Roll」の２曲を音楽に合わせてお遊戯しました。一生懸命にお遊戯する園児たちの姿を見て、会場からは惜しみない拍手が沸き起こっていました。その場に居合わせた全ての人たちの心を温めてくれる素晴らしい交流会でした。

峡南高校　第１９回　正月飾り交流会

１２月１９日（月）、峡南高校では年末行事として恒例になっている「正月飾りづくり」を行いました。

正月飾りづくりは、平成８年から行うようになってから１９回目になります。この目的は、峡南高校は生徒会と共に、長年にわたり地域との連携及び関係を強く結び、様々な行事やボランティア活動を通じて、生徒の「心の教育」を推進することです。また、その一環としてこの年末行事は、地域のお年寄りと和やかに正月飾りの準備のお手伝いをしながら、楽しいひとときを過ごすことです。当日は、峡南高校峡香館にて、身延町三沢地区の高齢者、身延山高校生徒職員、峡南高校生徒職員、総勢７０名を超える参加者で、盛大に執り行われました。開会に当たり、向山豊隆校長は「みんなで楽しく交流し、正月飾りを作成してください」と挨拶されました。続いて川野一貴生徒会長は「普段は地域の方々と交流する時間がなかなかありません。今日は、正月しめ縄作りを交流しながら楽しんでください」と挨拶しました。いよいよ正月飾りづくりです。講師の上田幸子様が懇切丁寧に作成方法を説明いたしました。皆さん、真剣な眼差しで作成に没頭し、完成品に満足している様子でした。次に、吹奏楽部・応援団のすばらしい発表があり、楽しいひとときを過ごすことができました。

ひと・もの・まちづくりセミナー

１２月３日（土）に、山梨学院大学で「家庭や地域で考えるこれからの減災・防災のあり方～求められる主体的な自助・共助」と題して、講演会がありました。講師は、“釜石の奇跡”で有名な群馬大学大学院　片田敏孝教授でした。

講演の内容は、①最近の災害の多さ　②想定をはるかに超える災害に、どう向かい合うか　③避難三原則　の３つの柱で構成されていました。まず①については、熊本地震（４月）震度７が２回、鳥取地震（１０月）震度６弱、福島県沖地震（１１月）震度５弱など、「東日本大地震で大きく崩れたので、全体的に地床が荒ぶり、他のプレートへの影響がある」。また、地球温暖化により近海の海水温が高くなり、１回の雨量が多くなったり、台風が巨大化したり、高緯度の北海道に上陸することが多くなっている（H28 年は、６回）。

②については、災害の危険性に向かい合い、災害時にしっかりした行動がとれるかが大切である。東日本大震災の時、大津波の危険を察知して、釜石の中学生が隣接する小学生に声をかけ、１．７ｋｍ離れた高台まで一緒に逃げて、生き抜くことができました。

③については、○自然に対して「想定にとらわれるな」、○自分として「最善を尽くせ」、○集団の中の自分として「率先避難者たれ」という『避難三原則』を伝え、姿勢の防災教育を実践してきました。

第１７回ふじかわ分校まつり

わかば支援学校ふじかわ分校（中山真男校長）は、１１月５日(土)に「第１７回ふじかわ分校まつり」を開催しました。開祭式に続いて、学部発表が行われました。小学部は色鮮やかなかわいい衣装で「３匹のこぶた」を、中学部はリオデジャネイロオリンピックの感動を胸に、練習に取り組んできた「リオでじゃないの!?～ふじかわオリンピック　ぼくたちもやればできる!!～」の発表をそれぞれ行いました。また、午後から「お祭りひろば」と「ＰＴＡバザー」が行われました。児童生徒が手作りした品々を、児童生徒自らが販売を行う「お祭りひろば」は大盛況でした。元気いっぱいに活躍する児童生徒たち、児童生徒を取り巻く先生方や周囲の大人たちのやさしい心遣い、訪れる人々の心を温めてくれる分校まつりでした。

高校学園祭

身延山高校

身延山高校（小林学校長）では、「百花繚乱～一人ひとりが輝くステージ～」をテーマに１０月２９日(土) に「延山祭」を開催しました。開会式・開式法要、弁論大会（手話通訳あり）、雅楽演奏、手話部発表、各学年発表の他、バザー・茶会・餅まき・軽音楽同好会発表・お笑いライブ開催、各学年等の展示などもあり目白押しの内容となりました。開催にあたっては生徒会本部・委員会・部活動それぞれが役割を分担して、運営していました。生徒会本部による「感動のフィナーレ」も素晴らしく最後まで熱気と感動に包まれた学園祭となりました。

◎南部みどり幼稚園園児たちと手話コラボレーション

手話部発表の際に、南部みどり幼稚園（松田たか子園長）園児たちと手話歌コラボレーションが行われました。「手話歌」は、音楽に合わせて歌詞を手話で表現するものです。この日、手話部員 15 名と園児 21 名が、「トトロの散歩」「花は咲く」の２曲を披露しました。訪れていた方々は発表に魅了されて、会場中が温かい拍手で包まれていました。

県立峡南高校

峡南高校（向山豊隆校長）は、１１月５日から３日間にわたって峡香祭を開催しました。テーマ「ポップコーン～みんなではじけ飛べ～」を合言葉に、６７回目の伝統を受け継ぐ華やかな行事となりました。初日は開祭式に続き、クラスごとのステージ発表が行われ、保護者も大勢訪れて活気あるステージ発表となりました。２日目は模擬店・仮装コンテスト・ＰＴＡバザー等、３日目は体育祭が行われました。また工業科の専門高校らしく「ものづくり」の発表の場として、科ごとに生徒制作の展示が行われました。各科の特色を生かした作品は、どれも「誰かのために」、「大切な人のために」という思いが伝わってくる素晴らしいものばかりでした。

県立増穂商業高校

増穂商業高校（川手正昭校長）は、１１月４日～５日に大きなイベントのひとつである「緑誠祭」を開催しました。今年で６１回を迎え、テーマは「It's 商 time　～ぴかぴか　かがやく　りょくせいさい」。初日は開祭式に続いて、クラス発表、個人パフォーマンス等が行われました。２日目は、学園祭のメインである増商デパートが開催されました。普段学んでいる商業系科目の実践的学習の場として位置づけ、仕入れから販売、そして会計処理まで生徒が行っています。今年は、売り上げの一部を熊本地震義援金にあてるそうです。当日は、秋晴れにも恵まれて、開店と同時に多くの人たちが訪れていました。大盛況の増商デパートとなりました。